



TNVN network news

東京日本語ボランティア・ネットワーク

URL: <https://www.tnvn.jp/> E-mail: office@tnvn.jp

2023年
12月1日発行
No. 120

目次

日本語ボランティア活動のこれから 山田 泉	1	Nice to Meet You はじめまして！運営委員です	
共に暮らすやさしい街に 八王子国際協会 牛山 秀一	2	片岡 典子、天坊 千明、中村 三千子、佐久間 榎守	6,7
「TNVN創立30周年」おめでとうございます 金子 広幸	3	TNVNは30歳になります！ 林川 玲子	7
30周年記念に向けたアンケートの回答から（抜粋）	4,5	会員名簿	8



TNVN
ホームページ
QRコード

日本語ボランティア活動のこれから

山田 泉
(元 法政大学教授)



わたしは、8月に73歳になり、心身ともに「老人」が板についてきたと実感しています。これまで日本語教育や日本語ボランティア活動に関わってきて感じている個人的な考えを「老人」として述べることをお許しください。そう言うと、わたしなんかよりさらに実践を積んできた諸先輩に「何を若造が…」と叱られますが、こちらもお許しください。

さて、国のレベルでいうと、今、日本語ボランティア活動も含めた日本語教育の世界が大きな転換期にあるといえます。2018年に「日本語教育推進法」が制定されその下で国家レベルの制度、システムの整備が急速に進みつつあります。中でも大きいのは、国による日本語教育機関の認定と登録日本語教員制度の設置です。これら日本語関連事業が社会に認知され、日本語教員が「食べていける」まっとうな職業となることは、多くの関係者の悲願で、喜ぶべきことだと考えます。

その上で、教育機関と教員が対象学習者別に資格整備が進められていることに注目します。主な対象学習者は、生活者、留学生、就労者、難民、児童生徒等です。このうち「生活者」はこれまで日本語ボランティアが担ってきたものとほぼ重なると考えられます。この分野について、地域の日本語ボランティア活動関係者の立場から、国の取組に提言していくことが大切だと思います。

移民受け入れ先進国であるドイツ、フランスやオーストラリア、カナダなどは、それぞれの主要言語を第二言語として学ぶための法律の制定を行い、プログラムを整備し、学習機関、教員、カリキュラムや教材等を公費で保障しています。移民がこれらの教育を受け一定の言語能力を付け

ることを在留資格付与の条件としている場合もあります。韓国も移民等に対する韓国語教育のシステム整備は進んでいて、1年以上滞在する移住者は希望すれば無償で学ぶことができます。わたしも2012、3年に1年間韓国に住み三つの学校で学びました。学習プログラムや教材も国の関係部局で開発し、教員も専門の大学院教育を受け500時間のインターンを終えていることが条件となっていました。韓国内のどこに住んでいても車で1時間以内にアクセスできるように教室を増やしているということでした。都合で教室に行けない人に対しては、専門教員による出張授業が組まれていました。その後、外国につながる子どもの「継承語・継承文化教育」も受けられるよう教室整備が続いています。今年2月に伺った全州のある教室（学校）では、韓国生まれの子どもが祖父母を尋ねる渡航費なども含め国と地方公共団体とで年間（日本円で）約3億円の事業費を使っているとのことでした。韓国人の関係者に日本の「日本語ボランティア教室」の話をすると、国や行政にとって「コスパがいい」と「褒められ」ました。

今後、移住者に対して、社会参加のための第二言語教育では、日本にも韓国並みの公的取組を求めたいと思います。ただし、これまで日本語ボランティア活動が担ってきた移住者とホスト側住民が居場所としての日本語教室で出会い、ともに学び、ともに地域を「共生社会」にしていく社会教育（生涯学習）としてのボランティア活動およびその発信基地としての「教室」へのさらなる支援も必要です。この二つを、来年度、文化庁から文科省に移管すると言われていた日本教育関係行政に強く求めたいと考えます。

「共に暮らすやさしい街に」

寄稿

牛山 秀一

NPO法人 八王子国際協会 事務局長



八王子国際協会は、2004年に組織された「八王子国際交流団体連絡会」の交流事業を引き継ぎ、2008年7月に設立しました。2019年4月に「特定非営利活動法人」になりました。

〈多文化共生社会〉を目指し、八王子市と協働で事業を行っています。

大きく分けて

1. 生活・コミュニケーション支援事業
2. 国際交流事業
3. 国際理解事業

の3つの事業を行っています。

また、約300名の「会員」と翻訳・通訳をお願いする20言語約350名の「語学ボランティア」の皆さんによるボランティア活動によって支えられています。

日本語学習支援について

東京日本語ボランティア・ネットワーク(以下TNVN)との関係が強い日本語学習支援について、活動状況を紹介します。日本語学習支援は、団体会員のボランティア団体が行っています。中には設立して35年以上で会員が150名という団体もあります。

当協会は八王子市からの受託事業として日本語ボランティア養成講座を行っています。日本語ボランティアを始めようとしている方・始めたばかりの方を対象とした「基礎講座」、日本語の学習支援スキルを向上させたい支援者を対象とした「ステップ・アップ講座」を開催しています。「基礎講座」は年に2回、「ステップ・アップ講座」は年に1回開催します。いずれも3日間コースです。

特に「基礎講座」は応募者が定員を超えて抽選になる程の人気がある講座です。TNVNから長年講師を派遣していただいています。アンケートでは「外国語で自己紹介をする大変さを知り、日本語を学ばれている方の気持ちが少し分かった気がします。」「ロールプレイ等、実際のボランティア時に起こりうる状況をイメージ出来て、ドキドキとした緊張感と楽しさを感じることができました。」とご満足いただきました。

小学生・中学生向け学習支援について

八王子市内2か所で毎週1回、外国につながる子どもたちの学習支援をしています。現在、学習支援者は約35名、学習者は30名程度です。

学習者は市内の小学校・中学校に通う児童・生徒のほか、インターナショナル・スクールに通う児童もいます。以前は日本生まれの学習者が多くいましたが、現在は在日してからの期間が短い日本語指導を要する学習者が多くいます。この教室を設立した頃とは学習対象者の姿が変わり学習支援の目標が異なってきました。日本文化を確認する日本語学習のもとに教科学習をすることが多かった以前と異なり、日本語の基礎支援と学習用語の支援が必要となっています。そんな状況にもかかわらず、学習者の子どもたちは笑顔で教室に飛び込んできてくれるので、支援のボランティアも苦勞が形になり、子どもたちを笑顔で迎えています。

支援者は、教員経験者、海外滞在経験者、主婦、定年退職者と様々ですが、市内の高校生や大学生もいます。勉強に一生懸命に取り組む子どもたちが楽しみにしているのは、学習後に少しだけ息抜きするゲーム時間です。学習の時は小さな声しか出なかったのに、この時間は大はしゃぎです。学期末に定例となっているお楽しみ会は、高校生や大学生が中心になって運営してくれるので、休みがちな学習者もこの日には参加します。子どもたちを取り巻く環境はさまざまですが、ここに来ればホッとする「居場所」になることが、八王子国際協会の学習支援教室の目標です。



「日本語ボランティア基礎講座」のワークショップ

「TNVN 創立30周年」 おめでとうございます。

日本語教師 **金子広幸**

2008年3月14日発行のニュースレター61号から掲載の機会をいただきました。今号が120号でしたら60編ちかくは書いているのですね。毎号、溢れる想いはとりとめもなく、文字に書き直すのもどかしいほどに、書きたいことがいつも湧き出てきます。この記念すべき号に、一文を寄せたいと思います。

「こういう教材がほしいな」という希望は、地域支援のボランティアの読者の皆さま、学習者、日本語教師、みなにありますね。教材として発行されるまでには、学習者の心境や使う教師の気持ちまで考えなければなりません。労苦と推敲の日々があります。

また、私たち執筆者には、その前のステージもございます。

例えば、日本語教育の教材なら、授業の中でヒントを見つけているのです。「この練習が学習者の役に立った」とか「この説明がよかった」などの発見の積み重ねです。これらが、少しずつ結実し、紙面になっていきます。

さらに、よくここでテーマにさせて

いただく「絵」などの視覚物があります。

日本語の期日名詞が難しいことを紹介し、それを覚えてもらうために、クラスでは、手書き・手作りのカレンダー（図参照）を作る活動をしていると、95号でご紹介しました。

さらに、いろいろな教室活動や、日本語そのものの問題点についても、ここの話題にしてみました。

99号で手人形というのをご紹介しましたね（図参照）。教室の日本人は私一人だけですが、この手人形を使ったら、対話を学習者に見せられるようになり、それをここでご紹介しました。

また、多くの人が感想をお届けくださる敬語の使い方の話題も、ここによく掲載しました。

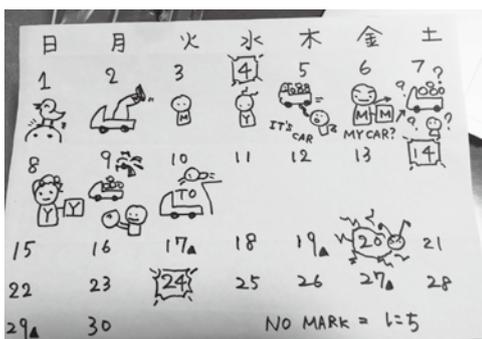
このように、多くの人に支えられ、実った刊行物はたくさんの人に読まれ、さらに広められて、新たな価値を持ちますね。

私の敬語の本など、刊行物を作る過程では、出版社の編集の方々たちの存在は欠かせません。UさんTGさんTSさんNRさん…どの方も、本の背表紙に、執筆者の私の名前と並べ

て、お名前を記したほうがいいのではないかと思うような方々です。どう考えても私の単行著作物とは思えなくて…。

もうお気づきですよ。ここ！このニュースレターにも、毎号の発刊を支えてくださる担当の方が複数おいでなのです。「61号を書きませんか」と誘ってくださったHK先生、そしていつも原稿を待ってくださるOKさん。私が忙殺されているので、原稿だけのやりとりをさせていただいているのですが、その時にもヒントをお届けくださいます。直接お目にかかって御礼を申し上げる機会もありませんね。本当にごめんなさい。多くの方のお力添えの上に、この「日本語教師の窓」が成り立っています。それを読者の方にも知っていただきたかったのです。オンライン化されてからは、どこに出かけていっても「金子さんの文、読んでるよ」と言ってもらえます。それは遠くアメリカにおいても同じでしたよ。

まずは衷心より御礼を申し上げます。いつもたくさんのお力添えをありがとうございます。



手書きカレンダー



手人形



30周年記念に向けた アンケートの回答から... (抜粋)



アンケートへのご協力ありがとうございました。正会員85団体にアンケートを送付し、33団体から回答をいただきました。いただいた全てのご回答についてはTNVNホームページに会員向けに限定(新設)して掲載する予定です。(TNVN 事務局)

Q1

TNVNは今年で創立30周年になります。貴教室におかれましても設立当時と現在で、何か大きく変化したことがありましたら教えてください。

設立当時は子育てがほぼ終了した主婦がボランティアとして当会に多く参加していただきましたが、最近はその年代の方は仕事に就かれることが多く、応募者が減っています。(港区)

対面教室として活動しておりましたが、コロナ以降は、完全にオンライン教室になりました。(渋谷区)

学習者が大幅に増え、希望する学習者の受け入れが困難に。学習者の国籍・在留資格も変化(ベトナムの技能実習生が減少、中国のIT関連会社社員とその家族が増加)(江戸川区)

創立当時は150名を数えたとされる会員数は、このところ50名前後で推移。ボランティアが足りない状況が慢性的に続いている。活動時間の制約から若い人や勤労者が入りづらく、高齢化が進んでいる。(清瀬市)

外国人等の日本における環境や状況が大きく変わりました。当教室の学習者子どもの大半が日本で生まれ育ったバイリンガル話者でしたが、現在は9割以上の学習者は、来日期間が短く生活の日本語ができないで始める子です。(八王子市)

もともとシニア層中心のボランティア活動団体であったが、現在はさらに高齢化が進み、どのように次世代にバトンタッチしていくかが課題となっている。(豊島区)

コロナ禍等で行動が制限されてふれあいが少なくなっている。当初中国等の中高年の学習者がみられましたが現在は若い方が中心となりました。当会は創立25年ほどです。(葛飾区)

Q2

インターネットの普及やITの発達などで貴教室の活動において、何か大きく変化した事(やり方、教材等)がありましたら教えてください。

基本、リアルでの対応なので、コロナ禍の最中においてすら、ズーム等のIT使用は一切しておりません。(小平市)

教室にWi-Fiが設置され、web上から写真、ニュース、画像が授業で利用可能に。授業報告等もエクセルで作成しメール添付で送付も可能に。LINEも連絡に便利。(杉並区)

ZoomとPayPayなどITの発達により、動画・静止画が使い、教室に来なくても授業が可能で、対面よりも効果的で、帰国先・海外までも授業を届けている。(港区)

新しい支援者の中には、パソコンを持ち込んで活用している人がいます。教室にWi-Fiがあるので、必要な情報をすぐ取り出せるので便利です。(町田市)

教材はインターネットで調べれば必要な教材が見つかるようになりました。しかも無料でDL出来るのでボランティアとして助かっています。ビジュアルを見せるのにスマートフォンやタブレットを活用しています。学習者は興味をもってくれます。(練馬区)

- ①国際交流基金の無料オンライン教材「いろどり」を使うボランティアが増えた。
- ②学習者・ボラとも、レッスン中にスマホを活用するようになった。Wi-Fiが無いのが悩みです。(江東区)

通信教育のための教科書・練習帳・テスト等を開発し、契約を結んだ企業・日本語学校と提携し、オンライン授業開始。本年8月からはベトナムとも授業を開始。(中野区)

Q3

コロナが5類になり、日常生活も元に戻りつつあるようです。貴教室の活動において、コロナ以前と現在で何か変化がありましたら教えてください。

約2年間教室を閉じていたため、多くの生徒の足が遠のき、再開後もその方々は来られなくなった。一方で、コロナ明けから急激に留学生が急増し、既に新規の生徒の受け入れを断っている状況です。(豊島区)

手の消毒・マスク着用は今でも半数くらいの人が続けています。(町田市)

オンラインクラスになったことで、世界の現地(中国、シンガポール、ベトナムなど)から学習者が来るようになりました。(千代田区)

1コマ90分だった学習時間を70分にして、全体のコマ数を増やしました。毎月行っていたスタッフミーティングは年に数回になり、代わりにメールでの情報共有をしています。(杉並区)

教室はコロナ前はフリーで何人でも受け付けることをしていました。現在はボランティアの参加も考慮し学習者受け入れのリミットを20名までもしくは25名までと密にならないようにしています。(葛飾区)

対面学習と、リモート学習の2本立になった。リモートは1クラスのみ。リモート学習希望はあるが、対応できるボランティアが少ない。(江東区)

Q4

最後に、今後のTNVNについて期待することがあればお願いします。

会員同士の情報共有がさらに容易になり、共通の課題について対策が講じられる、あるいは行政当局への働きかけができるようになればと思います。(江戸川区)

会員間の情報交換と相互交流(杉並区)

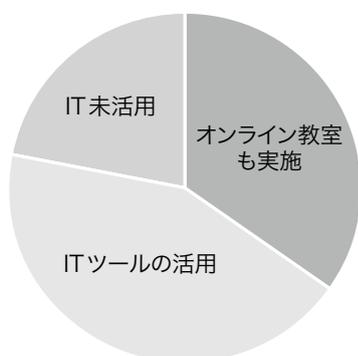
コロナのとき他の教室のことができた。これからも個々の活動を繋げる架け橋となってほしい。(渋谷区)

指導に役立つ研修や講演があれば参加します。また、他の教室の状況なども知りたいです。(品川区)

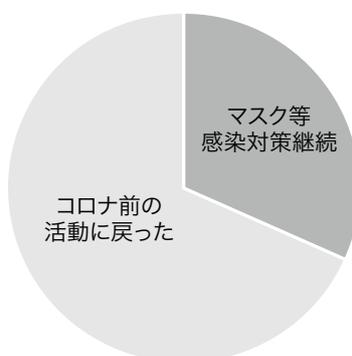
今後も地域の日本語学習を支える仲間を繋ぐ機関として、情報交換や、講演会等の研鑽の機会を提供していただきたい。(品川区)

紙面の情報誌がとても参考になる。これからも続けて欲しい。(小平市)

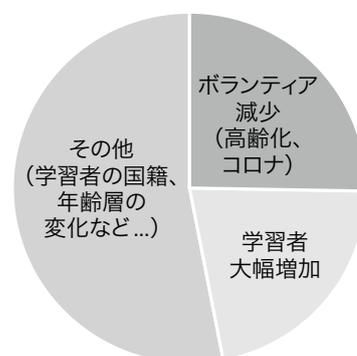
TNVN30周年 会員の教室にもさまざまな変化が.....



ITの活用レベルは...



コロナ5類以後教室は...



ボランティア・学習者は...

※ TNVN30周年アンケートの回答からカウントしてみました

はじめまして！
運営委員です

Nice to Meet You

日本語ボランティアを始めて10年、そこで出会った仲間と「にほんごクラブ・ゆう」を立ち上げて7年となりました。設立当初は、ボランティアと学習者に来てほしくて、また、ほかの教室の情報を得たくて、すぐにTNVNに入会しました。そして、「イベント掲示板」にボランティア募集の告知を出し、「日本語教室ガイド」にも載せていただ

nice to meet you

片岡 典子

にほんごクラブ・ゆう（江戸川区）

きました。お陰で、スタッフと学習者はどんどん増え、現在は総勢45人になりました。部屋を2つ借りていますが、学習希望者が多すぎて、なかなか入会できない状況が常態化しています。

当クラブは大学生・大学院生、仕事帰りの会社員など、比較的若いスタッフが多いことが特徴です。恐らく平日の19:30~21:30と、区内でも最も遅い時間帯を設定したためだと思います。学習者も多くが働いているので、残業で間に合わなかったり、休みが多いのが悩みの種です。

コロナ禍では、「連携」の大切さを痛



たなばたイベント 筆者は中列左から4番目

感しました。クラブ内ではSNSで情報共有ができたことや、区の日本語ボランティア連絡会で3カ月ごとに情報交換ができたこと、毎回送られてきたニュースレターの記事も非常に役立ちました。今回、運営委員になったことを機に、これから求められるTNVNの活動について、皆さまと一緒に考えていきたいと思っています。

nice to meet you

天坊 千明

にほんご学習すぎなみの会（杉並区）

区との共催で「杉並で暮らす外国人のためのにほんご教室」が、今日の形で生まれたのは1991年です。そこに至るまでには少々のムーブメントがあり、「外国人は不法滞在が多い。金は出せない」と言う議員さんには、米国とドイツの社会人教室のパンフレットを取り寄せてお見せしたりしました。区内には優れたボラ団体も複数ある中で、交流ではなく、社会教育の場で初級の体系的な教育の場が必要だと考えたからです。それを学習者も望んでいることがわかりました。社会教育の中の「社

会参加」の位置づけで分担金が支給され会場費・通信費・印刷費などが予算化。学習者も市民として対等の立場で参加費を払う。支援者は全員420時間養成講座修了者も区との条件です。しかし、それらは微々たる金額だと言えればバチが当たるでしょう。たかが〇〇でも、そこには大きな責務があるという自負で、歯をくいしばって頑張っています。事業計画の中での活動という制約の中で「日本語がわからず困っている人」を優先にすると教科書を超えた人たちをお断りする辛さもあります。



七夕まつり 筆者は右端

「対話」「自分のことを話す」「居場所」を目指す『いっぽにほんごさんぽ初級』はこの教室で誕生しました。5クラスは毎回文型を道具として、おしゃべりの花を咲かせています。

nice to meet you

中村 三千子

ちよだ日本語カフェ「Swan」（千代田区）

2014年、千代田区報に掲載された、文化庁委託事業「日本語ボランティア入門講座」を受講した20名のうち、10名で立ち上げました。TNVNの出前講座の先生方が講師をしてくださったので、私たちは、TNVNから生まれたと言っても過言ではありません。当時教えて頂いた講座を、今でも入会希望の日本人スタッフに新人研修として共有させて頂いています。

立ち上げたものの、資金がないのがボランティア。区社会福祉協議会に助成金を申請。外国人支援のための助成

金とっていたところ、地域福祉活動の助成金だったことから、福祉施設に外国人と赴き、区内の障害者や、高齢者、子どもたちと交流する活動もしています。コロナが来るまでは、対面で行っていたクラスも、2020年7月よりオンラインにて開催。参加費をカード決済できるようにしたことで、今まで学習者が母国に帰ってしまえば、それまででしたが、母国に帰ってもクラスに参加してくれたり、中国のyoutube版、ビリビリにクラスのことが紹介されたようで、ある日を境に中国本土か



筆者は左端の真ん中

らの申し込みが殺到したりで、気付けば、スワンは世界展開することに。素晴らしい仲間にも恵まれ、立ち上げから8年を迎えました。いろいろな国の友が繋がることや、地域交流が身近な世界平和を築いていると信じ、地道に活動して参る決意です。

佐久間 柁守 (協力会員)



■ 地域日本語教室の悩み

筆者の住んでいた台東区は観光立地区としての特性から在住外国人が区内人口の約4%を占めていた。だがそれらの人たちに対する日本語教育に関しては、以前からそれを指摘されていたにもかかわらず、意にも介さなかったのである。それが、突然降って湧いたかのような日本語教育という新企画。ともあれ外部専門学校への委託形態という日本語教師養成講座が1999年6月に開設され、筆者もその受講生の一人であった。

1か年にわたる講座の修了間際に、筆者はボランティアでの日本語教室の開設を講習仲間に提案した。講習仲間8人の賛同を得て、2001年4月に、「日本語学習市場」(日学市)の名称の、

地域日本語教室を立ち上げることができた。名称由来は、往年のシルクロード交易時代におけるキャラバンサライ(隊商宿)には多言語が飛び交っていたであろうとの、そのような情景を模し今日の多文化共生社会に重ねあわせの、そうした意味合いが含まれての名称であった。

現在は設立時の6名を中心に先生役12名に増加、週3回の授業を継続しながら、すでに20年を経過しようとしている。

「日学市」設立当時は、日本語教師専門家と言える、大学もしくは専門学校の出身者たちによつての混乱を招く言動にしばしば振り回されることになった。これらの人たちは頻りに「日学市」に来て、先生役を希望してくる。だが

ほとんどの人は、初日授業に顔を出しただけですぐに辞めてしまうのである。辞める理由は、「学習者のレベルがバラバラで授業計画が立たない」、「自身の習得した専門知識を生かせない」と異口同音に言っただけで去って行くのである。しかしこうした理由それこそが、まさに地域日本語教室の実態であり、それらについては履修時に知り得ていたはずである。だがそのことよりも更に驚いたのは、「ボランティアだから、いつ辞めるのも自由なはず」と、まるで捨て台詞のように言葉を残して去っていく人たちの多いことである。

東京日本語ボランティア・ネットワーク(TNVN)は 12月6日に30歳になります!!

生みの親・育ての親 「東京ボランティア・市民活動センター」(TVAC)の皆さま
30年間 ありがとうございます!これからもよろしく願いいたします!

1993年11月27日、TVAC主催「ぼらんていあ・めっせ・東京」の分科会「日本語教室」は230名の参加者で盛り上がり、改めて12月6日にTVACに集まり、ネットワークを結成しました。
TNVNは、TVACに活動拠点(事務局)を置かせていただき、当初1年間はTVAC職員(2名)に支えていただき、活動を軌道に乗せることができました。
その後も、メールボックス、戸棚の貸与、電話の取次ぎなど、いろいろお世話になっています。

I TNVNの活動目標とその結果

- ① 『日本語教室ガイド』の充実
 - ・冊子『ボランティア日本語教室ガイド』1994年から2018年まで8冊発行
 - ・TNVNホームページ「ボランティア日本語教室ガイド」の運営
- ② ボランティア団体相互の情報・意見交換
- ③ 日本語ボランティアの資質向上
TNVN会員が講師になり、入門講座、研修講座、出前講座などを実施
(当初、笹川平和財団に経済的援助をいただき、研修講座を2回、開催した。)
- ④ ボランティア日本語教室の認識を高める
1994年2月28日、ネットワークニュース1号発行、120号まで会員ほか、国内の日本語ボランティア団体、東京都など行政、ボランティア関係団体に配布(TNVNの存在を皆さんに知らせた。)

II 発足当初、活動の中心となった団体会員

IWC国際市民の会、JCA千歳船橋、LTC友の会、OCNet、江戸川ユニオン日本語教室、すみだ日本語ボランティア21、まちだ地域国際交流協会(MIFA)、八王子にほんごの会、多摩市国際交流センター等は、発足当初、役員、運営委員、スタッフ等の役割を引き受け、TNVNの活動の基礎を作り、活動を軌道に乗せた。

(TNVN裏話)

何故ネットワーク?…当時、インターネットは、まだ手の届かないものでしたが、同じ活動をする仲間が、蜘蛛の巣のように手をつなぎ、情報交換、意見交換をして助け合おうとネットワークを名乗りました。

*『ボランティアもう一つの情報社会』著者、金子郁容さんの講演会「ネットワーク論」にスタッフが参加しました。

* (故)豊島直人さん(「世界の子どもと手をつなぐ学生の会」創業者)の紹介により、国際電信電話(株)(現KDDI)が賛助会員になり、講座の会場や「ネットワークニュース」33号までの印刷代などを提供してくださいました。

賛助会員、協力会員の皆さま

TNVNの活動に、ご理解と、ご協力、ご支援をいただき、ありがとうございます!!
これからもよろしく願いいたします。

(代表 林川玲子)

会員名簿 2023年12月1日現在（下線 発足時からの会員）

*賛助会員（活動の理念に賛同し支援する 4団体・年会費 一口1万円）

(株)アルク/株スリーエーネットワーク/株アスク出版/Coto World(株)

*協力会員（活動の理念に賛同し支援する 15名・年会費 2千円）

(敬称略) 石原弘子/小川伶子/小田良子/北村祐人/佐久間柁守/澤 公子/杉山正吾/
土井宏平/林 恵子/林川玲子/万田里ガナシヤム/藤橋帥子/宮崎妙子/
山田 泉/吉川正則

*正会員（日本語教室 85団体・年会費 3千円）

足立区：日本語ボランティアめいめい/グループ ドメニカ/かけはし
荒川区：町屋日本語教室
板橋区：地球家族
江戸川区：江戸川ユニオン日本語教室/江戸川にほんご交流会B/江戸川にほんご交流会A・C/にほんごクラブ・ゆう
大田区：一般社会法人OCNet/うぐいす日本語教室/日本語ぐるりっと
葛飾区：木曜日の日本語教室
北区：アカバネジャパニーズ
江東区：やさしい日本語/グッドナイト日本語教室/豊洲にほんごサークル
品川区：西大井日本語サークル/NPO法人IWC国際市民の会/社会福祉法人さぼうと21
渋谷区：千駄ヶ谷日本語の会/スペース・アイ/日本語MUSUBI/聖心女子大学グローバル共生研究所
新宿区：日本語グループWAIWAI/早稲田奉仕園日本語ボランティアの会
杉並区：LTC友の会/にほんご学習すぎなみの会/日本語教室・高円寺/杉並日本語会話の会/日本語交流クラブ/kosatenにほんご
墨田区：すみだにほんごボランティア21/本所賀川記念館日本語教室
世田谷区：JCA千歳船橋/世田谷日本語クラス/日本語サークル「わかば」/にほんごの会談話室/明正日本語会
中央区：にほんご生活/中央区文化・国際交流振興協会
千代田区：ミンガラ日本語教室/ちよだ日本語カフェ「Swan」
豊島区：めじろ日本語サークル
中野区：中野区国際交流協会/NPO法人多文化子ども自立支援センター
練馬区：大泉学園さくら日本語教室/こんにちはにほんご/日本語クラブ☆いずみ/光が丘やさしい日本語/光が丘ことばの会/みんなの日本語教室/日本語教室エコー
文京区：文京日本語交流員の会/弥生日本語の会/しゃべろう日本語
港区：NPO法人新現役ネットしば日本語クラブ/日本語学習会さくら会/ビバ日本語教室/ブラチナ日本語教室
目黒区：ICN駒場日本語教室/にほんごの会くれよん/目黒ユネスコ日本語教室
あきる野市：あきる野市日本語サークル
清瀬市：KIC日本語教室
小平市：小平市国際交流協会/小平たのしい日本語の会/小平日本語ボランティアの会一橋学園
多摩市：多摩市国際交流センター日本語セミナー部
西東京市：TIC田無日本語教室
八王子市：NPO法人八王子国際協会/八王子国際友好クラブ日本語教室/八王子にほんごの会
羽村市：日本語ボランティア翼の会・夜の部
東久留米市：東久留米にほんごクラス
東大和市：あつまれ日本語ひろば
日野市：日野国際友好クラブ/南多摩日本語の会（高幡）
府中市：府中国際交流サロン
町田市：町田国際交流センター/まちだ地域国際交流協会/町田にほんごスクールネット/町田日本語の会
武蔵野市：(公財)東京YWCA「いちごの会」
武蔵村山市：武蔵村山日本語の会

(参考)

TNVN発足時の会員（1994年6月14日発行「NETEORK NEWS」第2号による）
賛助会員 5団体
協力会員 41人
正会員 62団体



東京日本語ボランティア・ネットワーク (TNVN) は都内のボランティア日本語教室のネットワークで、会員からいただく会費で運営している民間の団体です。会員は日本語学習支援活動を通して、言葉のため日常生活に不自由を感じている外国人を、隣人として支援しています。又、TNVNは会員への情報提供・会員相互の情報交換、および外部との情報受発信を行い、活動の活性化を図ります。

東京日本語ボランティア・ネットワーク事務局の活動

◆日本語ボランティア相談窓口

日本語ボランティアの活動についてのご相談・ご質問にベテランスタッフがお応えします。メールでお問合せください。

*対面でのご相談にもお応えします。ご希望の方は、以下メールでご予約の上、おいください。

日時：毎週金曜日午後2時～4時
(祭日休み)

場所：東京ボランティア・市民活動センター
JR、地下鉄（東西線・有楽町線・南北線・大江戸線—出口B2b）
飯田橋駅下車
セントラルプラザビル 10Fロビー

◆郵送先

〒162-0823
東京都新宿区神楽河岸1-1
東京ボランティア・市民活動センター
メールボックス No.4

◆E-mail : office@tnvn.jp

◆URL : https://www.tnvn.jp/

◆郵便払込

口座番号：00100-1-719259
加入者名：東京日本語ボランティア・ネットワーク

◆会員数（2023年12月1日現在）

正会員：85団体
協力会員：15名
賛助会員：4団体

◆編集/大野 敏宏、岡田 美奈子、小野 美恵子、仁村 議子、林川 玲子、山内 眞理、渡辺 紀子
◆レイアウト/美巧社